留学報告書

～Love My Self～

アラスカ大学フェアバンクス校

国際文化学部（長期）

私は、アメリカのアラスカ州フェアバンクスに約 8 か月間留学しました。私が留学を夢見たのは中学生の頃でした。幼いころから母が私に英語を習わせてくれていて、何年も教えてくれた先生の英語を自由自在に操る姿がとてもかっこよく、憧れていました。そのおかげで、勉強が苦手な私でも英語だけは好きで続けることができました。先生も留学経験者で海外経験も豊富ということもあり、海外での生活を夢見るのはとても自然なことだったと思います。また、中学生のころから SDG s に興味を持つようになりました。特に興味を持ったのは海外の貧困問題についてです。いつからか貧困で苦しむ人たちを救う手助けをしたいと思うようになり、そのためには英語を話せるようになろうと考え、語学留学を真剣に視野に入れはじめました。このような理由から私は留学を目指し始めました。

高校生になってからは、普通科ではなかったので英語の授業も多くありませんでした。そのため、選択授業がある 2、3 年生で実用英語の授業を取っていました。ALT の先生が授業に来てくれていたので、授業内外を問わず話しかけに行き、英語力を伸ばすために努力をしていました。

そして大学に入学して、本格的に留学を目指し始めました。私は他の人より取り組み始めたのが遅く、留学内定に必要な TOEFL の勉強を始めたのは一年生の秋学期からでした。もともと英語が好きで得意でしたが、小さいころから力を入れてきたのがスピーキングとリスニングだったため、勉強が苦手な私は文法やリーディングに躓いてしまいました。まわりの生徒は春学期から TOEFL の勉強をしていて、秋の TOEFL 講座では春の復習や応用をしていたので、基礎ができていない私は置いて行かれていました。周りより劣っているという劣等感と伸び悩む TOEFL の点数、迫りくるタイムリミットで何度もくじけそうになりました。しかし、先生方と留学経験者の先輩たちの支えのおかげで半年間頑張り続けて無事に留学内定をいただくことができました。

アラスカと聞いたとき、マイナスなイメージを持つ人が多いと聞きました。しかし、私はとても嬉しかったです。なぜなら、大学に入ってからアラスカについて触れる機会が多

かったためです。ずっとお世話になった先輩もアラスカに長期留学をしており、アラスカがどんなにすばらしいところか、たくさんの話を聞かせてくれました。また、一年生の時にチューターを担当した留学生もアラスカ大学から来た学生でした。チューターとして交流する中で、アラスカがどんなところで、どのような生活をしているのかを話してくれたため、アラスカに留学できると聞いたときはとても嬉しかったです。

留学前のプログラムで苦戦したり、ビザ予約停止の影響で留学への道が閉ざされそうになったりした時もありましたが、何とか出発日を迎えることができました。何か月も家族から離れるのは人生で初めてだったので不安もありましたが、たくさんの困難を乗り越え、幼い頃からの夢をかなえようとしていることへの喜びと期待で胸がいっぱいでした。しかし、現実はそう甘くはありませんでした。中部国際空港から出発し、韓国の仁川空港、シアトル、フェアバンクスという乗り換えでしたが、ビザを取得できたのが出発の数日前で航空券のチケットが取れているけど席が決まっていないという状況でした。どうしたらいいのかわからず、カウンターに聞きに行きましたが、ほとんど指示を理解できずこれからの飛行機の不安と、自分の英語力の低さの焦りから心がくじけそうになりました。しかし、後にも先にも英語でこのような大きな問題が起きたのはこの時だけでした。アラスカ大学についてからは、先生たちも友人もとても優しく、何かあるとすぐに対応してくれてわかりやすい英語で話すようにしてくれていました。

授業が始まってからも大変なことが多くありました。ネイティブの英語はやはり早く、聞き取って理解するのがとても難しかったです。私はすぐに人と比べてしまう癖があるため、名古屋学院大学から一緒に来た留学生や他の大学の日本人留学生と一緒に授業を受ける中で、自分だけ劣っていると感じ、落ち込んでしまうことが何度もありました。しかし、その様子に気づいた先生が二人だけで話をする機会を作ってくれました。何に対して不安を持っているのか、授業の改善点があるかなどを聞いてくれたり、自分にあった勉強のやり方を一緒に見つけてくれたり、とても親身になって支えてくれました。三人もの先生が私のことを気にかけてくれていて、私が落ち込んでいることに気づくたびに話を聞いてくれました。先生方は共通して、「これはあなたの冒険なのだから、他のことは気にせずあなただけに集中しなさい」、「自分のことを愛してあげて」と言ってくれました。日本から遠く離れたアラスカという厳しい環境で、一人で生活していても挫けずに英語力を伸ばすことができたのは、先生たちの支えがあったからこそだと思っています。

アラスカは他の州と比べて、とても自然が豊かな地域です。キャンパス内に野生のキツネやヘラジカが住んでいたり、何度もオーロラを見ることができました。寒い地域なのでウィンターアクティビティーが盛んで、授業でウィンタースポーツや犬ぞりについて学ん

だり、実際に見ることや体験することもありました。また、アラスカの先住民族について学ぶ機会もありました。他にも有名な観光地やイベントに行ったり、パーティーを開いたり、自分で野菜を育てたり、白樺の木から樹液を採ったり、普通の授業では考えられないようなとても楽しい内容がたくさんありました。リスニング＆スピーキング、リーディング、ライティング、グラマーの授業があり、すべての授業で一か月ずつ共通のトピックを学んでいました。毎回季節やイベントに沿ったトピックを学びます。アラスカ大学は学ぶだけでなく自分で体験しながら学んでいくので、アラスカならではのことを楽しみながら英語を身にけられるというのがとても大きな強みだと思います。

「Take it easy !」これはアラスカにいる間に私が何度も聞いた言葉です。日本語では「気楽にね」、「無理しないでね」という意味になります。誰かが誰かに言っていたり、実際に私が言われたりしたことも何度もあります。考えすぎて空回りしてしまう私にはとても深い言葉でした。実際にアラスカで生活している人たちはとても自然体でした。フェアバンクスは自然豊かな地域で、日照時間の影響もあり、時間がとてもゆっくり流れているように感じられました。人々は何かに追われている様子を感じることはあまりなく、勉強、友人、アルバイトなど、一つ一つ切り替えて自分が無理せず、楽しんでやれる範囲内ですべてのことに取り組んでいました。その影響か、みんな毎日がとても楽しそうでした。全員が自分のことを愛していて、他人のことを尊重していました。自信満々に生きる姿はとてもかっこよくて私もあのような人間なりたいと思うようになりました。それからは少し気楽に物事を考えられるようになり、自分の英語力の向上や人間としての成長を実感して自分のことを少しずつ好きになることができました。いまだに人と比べてしまう癖はなくせていませんが、先生からもらった言葉や、「Take it easy !」を心の中で唱えることで、気持ちを切り替えて前に進むことができます。

留学も終盤になると自分の英語力が劣っていると感じることも少なくなっていきました。何カ月もの留学生活で英語力がついたのはもちろんですが、完璧を求めてしまっていた当時と比べて、完璧でなくても日々の授業や課題、友人との会話で伝わっていればそれで大丈夫。そう思えるようになったからです。

留学の目標はただ「英語を話せるようになる」というものだけでした。しかし、アラスカという場所で８か月間留学して私が学んだことは「自分のことを愛する」という事でした。自分に自信を持つことで自然とパフォーマンスが上がり、周りに人も増え、周りの人のことも愛するようになると毎日がとても良いものになります。今はアラスカでの長期留学を無事にやりきったことが自分の中で大きな自信になっています。私一人ではやり遂げられなかった留学です。ずっと支えてくれた家族、日本とアラスカの先生、友人、すべて

のことへ感謝の気持ちを忘れずに、アラスカで培った英語力と人間性を今後の自分の人生に活かしていけるようにこれからも精進していきます。

キャンパス内で飼われているジャコウウシ　アイスホッケー観戦
（Musk ox）







